|  |  |
| --- | --- |
|

|  |
| --- |
| **第７回全国空手道選手権大会実施要項****一般財団法人 全日本空手道松涛館** |

 |

**１．名　　称**　　第７回全国空手道選手権大会

**２．主　　催**　　一般財団法人 全日本空手道松涛館

**３．後　　援**　 （公財）全日本空手道連盟　（公財）日本武道館　日本武道協議会

（一社）東京都空手道連盟

**４．場　　所**　　　東京武道館

所在地：東京都足立区綾瀬３-２０-１
　　　　　　　　　　　交通案内：羽田空港から約１時間
　　　　　　　　　　　東京駅から約３０分

**５．日　　時**　　令和３年１１月１３日（土）開場　　　０９：００

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　開始式　　０９：４５

競技開始　１０：００

競技終了　１８：００（予定）

**６．競技種目及び進行**

＜形・組手＞

小学（１・２・３・４・５・６）年生男子、小学（１・２・３・４・５・６）年生女子

中学（１・２・３）年男子、中学（１・２・３）年女子

（注）形・組手ともに１回戦から決勝戦まで。

**７．出場資格**

（１）選手は、原則として令和３年度全空松会員登録者であり、本法人もしくは当該地区協議会推薦選手で、小学４・５・６年生については５級以上、中学生の部については本法人の有段者でなければならない。ただし、大会実行委員会が特段の事情があると判断した場合は別途出場を認めることがある。

（２）小学生、中学生の部は参加人数の関係で学年を統合することがある。

（３）小学生は、同一選手が組手と形の両方に出場することは認めない。

（４）大会実行委員会より不適当と認められた者は出場できない。

（５）監督（１名）、コーチ（３名以内）は、令和３年度全空松会員登録者で全空松審判員資格の有資格者であること。

（７）大会役員、審判員は出場できない。

（８）大会出場者は原則として当該地区協議会から選抜された者とする。今回は各地区協議会で選考基準を設け、各種目の出場者数は別表に従う。なお、大会実行委員会が特別に別途出場を認めることがある。

**８．競技・審判規程**

競技は、（公財）全日本空手道連盟空手競技規定並びに本大会申し合わせにて行う。

（１）組手競技

ア　競技時間及び勝敗

1. 小学生　　１分３０秒フルタイムの６ポイント差又は時間終了時に得点の多い選手
2. 中学生　　１分３０秒フルタイムの６ポイント差又は時間終了時に得点の多い選手

イ　競技方法

①トーナメント方式による

　　　②３位決定戦、敗者復活戦は行わない。

　　ウ　安全具

①ニューメンホー　　（全空連検定メンホーＮｏ．５以上）全員着用。

②マウスシールド　　　全員着用。

③拳サポーター　　　　小学生は全空連検定品の赤・青のリバーシブル、それ以外は全空連検定品の赤・青の拳サポーター

④ボディプロテクター　全員着装。すべて空手衣の中に着装すること。

⑤セーフティカップ　　男子全員着装。但し、小学１・２年生は監督の判断により任意とする。

⑥インステップガード及びシンガード　使用は任意とする。ただし、全空連等検定品とする。

エ　その他

①組手競技において安全具が不備の場合は出場できない。

②赤・青の帯（紐）は選手各自で持参すること。

③新型コロナウイルス感染防止対策として安全具・帯等の共有は認めない。

（２）形競技

　　ア　競技方法及び勝敗

　　小学生については２名同時に演武。決勝戦のみ１名ずつ演武。５名の審判員による赤旗・青旗の多数決。中学生以上は２名同時演武で５名の審判員による赤旗・青旗の多数決とし、ベスト４は５名の審判員の上下点数をカットした合計点方式で順位決定。

　　イ　演武形

1. 小学生は１回戦からベスト１６以下は、本法人の基本形である平安初段・平安２段・平安３段・平安４段・平安５段の中から選択することとし、同じ形を繰り返し演武することができる。ベスト８以上は、全空連第1指定形及び第２指定形又は演武していない平安形から選択することとし、同じ形を繰り返し演武することができる。

　　　② 中学生は1、２回戦は第１指定形とし、同じ形を繰り返してもよい。３，４回戦は第２指定形とし、同じ形を繰り返してもよい。５回戦からは得意形とし、同じ形を繰り返してもよい。ただし、１～４回戦で使用した形は使えない。

ウ　その他

　①形競技は試合開始直前までマスクを着用して待機し、２人で試合するときは、マスクを着用する。１人ずつ演武するときはマスクをはずして競技する。

②赤・青の帯（紐）は選手各自で持参すること。

　　　平安形は、一般財団法人全日本空手道松涛館発行の『松涛館流空手道教範全集（基本形）』、第１指定形及び第２指定形は『松涛館流空手道教範全集（得意形Ⅰ）』又は『松涛館流空手道教範全集（得意形Ⅱ）』に則り審判する。

**９．審 判 員**

大会審判団は、一般財団法人全日本空手道松涛館審判員又は公益財団法人全日本空手道連盟公認審判員有資格者をもって次により編成する。

1. 全国組手審判員及び地区形審判員以上の資格を有する、各地区協議会が推薦した審判員

（関東地区協議会は３０名以内、その他の地区協議会は１０名以内）

ア 原則として全空松組手審判講習会又は全空連全国審判員講習会等の受講者で７０歳以下の者

イ 上記に準じると地区協議会が推薦する審判員

　(２) 大会審判員に不足が生じた場合は、大会実行委員会から別途委嘱する。

（３）審判員はマスクとフェイスシールドを着用する。

**１０．安全管理**

(１) 選手は、本大会前１週間以内に、各自において健康診断を受け、医師の出場許可を得ておくこと。

（２） 出場選手は全員スポーツ傷害保険に加入していること。

　(３) 大会期間中の傷害保険は、主催者側が出場選手全員に主催者負担で加入手続きをする。

（４）出場選手が競技中負傷した場合は、主催者においては応急処置を行なうが、その後は、自己の負担・責任で治療すること。

　(５) 保護者、監督又は選手本人において、出場選手が利用できる健康保険証を携行すること。

**１１．新型コロナウイルス感染症対策**

（１）全空連「感染拡大防止マニュアル」に従って運営する。

　　　会場内ではマスクを着用すること。

（２）感染拡大の状況及び緊急事態宣言によっては、中止する場合がある。

（３）感染防止のため主催者が決めた措置に従うこと。

ア一般見学は不可とする。観客は入場券を渡した引率の保護者などに限定する。

イ　入場の際は、入場者連絡票の提出を義務付ける（選手・監督・コーチ・役員・引率者）。

（４）次の場合は参加を見合わせること。

ア　新型コロナウィルス陽性者及び濃厚接触者。

イ　参加者の体調がよくない場合（発熱、咳、咽頭痛など）の症状がある場合。

 ウ　同居家族や身近な知人に感染者が出た場合及び感染が疑われている場合。

　 エ　出場選手及び関係者で過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。

**１２．出場費及び分担金**

（１）個人戦１種目１名３，０００円

（２）招待選手についても出場費を徴収する。

（３）大会分担金（加盟団体：広域団体の○○本部、道場、教室なども含む）５，０００円

（出場しない団体も納入のこと）

（４）天災などやむ得ない事由で大会を中止する場合は、出場費は返金するが、大会分担金は返金しない。

**１３．出場申込方法**

後日通知する。

**１４．申込期限**

令和３年９月２２日（水）必着

（注）審判員募集締め切りは令和３年９月２２日（水）

**１５．宿 泊 等**

（１）宿泊・交通費は自己負担とする。

（２）主催者による宿泊斡旋は行わない。ただし、本法人の指定する旅行会社を紹介する。

**１６．そ の 他**

（１）ゼッケンは全空松で作成し、選手の所属団体あてに送付するので、出場選手に配布すること。

その際、ゼッケンが縫い付けられていないと参加できないことを告知し、しっかり縫い付けるよう指導すること。ゼッケンの色分けは、組手は黒、形は赤とする。

（２）出場申込書提出後の選手の変更は認めない（監督・コーチの変更も不可）。

（３）受付は、会場正面玄関で行う（詳細は後日連絡）。

（４）参加者は、必ず引率者を指名配置し、出場選手の掌握、荷物の管理等に当たらせ、円

滑な大会運営、事故防止に協力すること。

（５）競技種目が終了後選手は流れ解散とする。

（６）試合終了後賞状ができ次第表彰式をする。

（７）電車等公共交通機関を利用すること。

（８）天災等により当日大会会場当該地区において大会運営に支障があるような各種警報が発表された場合は、大会を中止する場合がある。延期はしない。中止の発表は前々日正午までに各地区協議会及び参加団体に連絡する。